

【編集後記】「明日は我が身」

ロシアの侵略に対するウクライナの抗戦が続いているが、瓦礫と化した街や生活を破壊された人々を見ると本当に心が痛む。砲撃や銃弾の中で過ごす住民の不安や恐怖は想像もつかない。ソ連時代に西側諸国からの攻撃に備えて作られた地下シェルターが避難場所として活用されているという。わが国では、国民保護法に基づき、都道府県知事が有事の際の避難施設を指定することとされているが、その総数は約9万4千か所で、このうちミサイル攻撃の際に避難可能な地下街や地下鉄の駅は、1,300か所程度にすぎない。弾道ミサイルは、着弾地域の特定が困難で短時間で到達する。警報が出て直ちに避難できる堅牢な建物や地下施設を早急に確保することが望まれる。併せて早期避難、救助のための仕組みを構築し、住民参加の訓練に取り組むことが必要だ。ウクライナで起きていることは決して「対岸の火事」ではない。

地域防災に関する総合情報誌 **地域防災** 2022年10月号 (通巻46号)

- 発行日 令和4年10月15日
- 発行所 一般財団法人日本防火・防災協会
- 編集発行人 高尾 和彦
- 〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19 (ヤクルトビル内)
- TEL 03 (6280) 6904 FAX 03 (6205) 7851
- URL <https://www.n-bouka.or.jp>
- 編集協力 近代消防社